

県民の森

花ごよみ 7月号

～今日はこんな花が見られます～

発行:茨城県植物園管理事務所

モデルコース: ゆつくり歩いて約90分

トイレ



オオバギボウシ (トウギボウシ)
花茎は高さ0.6~1mになる多年草。名は若い花序(かじょ)の形が爛干の擬宝珠(ぎぼし)に似ることからいう。
<クサスギカズラ科>
<ギジカクシ科>



ヤマユリ
中部地方以北の海に近い火山灰の土地が適地で静岡県や神奈川県に多い。高さ1~1.5mの多年草。神奈川県の花である。
<ユリ科>



イヌタデ
ヤナギタデに対して、葉に辛みがなく役に立たないという意味でつけられた名。別名アカマンマ。高さ20~50cmの1年草。紅色の小さな花を多数つける。まれに白色の花もある。



クサギ

枝や葉をちぎると強い臭気があることから名付けられた。花は夕方開く。10~11月に熟す藍色の果実も美しい。落葉小高木。
<シソ科>



植物園

森のカルチャーセンター

駐車場

マツ見本林

第二広場

第一広場

交歓広場

ひばり橋

展望台

0 100m

オトギリソウ



弟切草(おとぎりそう)の名は、この草を鷹の傷を治す秘薬としていた鷹飼いが、その秘密をもらした弟を斬ったという伝説による。飛び散った血が葉や花の黒点になったという。高さ30~60cmの多年草。葉の形、黒点の有無などに変異が多い。

ノリウツギ



枝を水にひたして内皮からぬめりのある粘液をとり、和紙を漉くときの糊料に用いたことから名付けられた。山地の日当たりのよいところでふつうに見られる。落葉低木~小高木。
<アジサイ科>

ヨウシュヤマゴボウ



北アメリカ原産。明治初期に渡来した。根はゴボウに似ているが有毒。果実は黒紫色に熟す。茎は太くて赤みを帯び、高さ1~2mになる。
<ヤマゴボウ科>



アキノタムラソウ

山野の道ばたなどにふつうに見られる高さ20~50cmの多年草。花は青紫色。
<シソ科>



ヒヨドリバナ

名はヒヨドリの鳴くころ花が咲くことから。高さ1~2mになる多年草。頭花(とうか)はふつう白色だが、紫色のものもある。
<キク科>

ヒヨドリバナ、アキノタムラソウ



コマツナギ

名は、茎は細いが馬をつなげるほど丈夫なことによる。日当たりがよく、やや乾いたところに群生する高さ40~80cmの草本状の小低木。
<マメ科>